

お知らせ

お悔み

高瀬 博子氏(令和2年6月8日逝去 享年66歳・ゆーあい工房保護者)
佐々木愛子氏(令和2年7月27日逝去 享年102歳・ゆーあいまつりボランティア・北海道赤平市)
ご冥福をお祈り申し上げます

寄付金

中村美知子氏(中村製材所社長)
佐々木金蔵氏(ゆーあい工房友の会 北海道赤平市)
中江一雄氏(滝沢ハム相談役)

誠にありがとうございました

行事報告 (暑気払い)

8月8日(土)社会参加活動の「暑気払い」を行いました。当初は、外出し市外を散策する予定でしたが、コロナ感染者が日に日に増加していた為、安全を考え、やむを得ず工房内での活動に変更させて頂きました。午前中は岩川理事長にもご参加頂き、ペットボトルボウリングや水鉄砲射的などのレクリエーションで盛り上がりました！お昼は冷やし中華定食をテイクアウト。美味しい昼食でお腹いっぱいになった後は、うちわ作り

に挑戦し、切ったり貼ったり描いたり・・・色とりどりの素敵な作品に感動！でした。

今年度初めての余暇の活動は、仲間も職員も共に笑顔が溢れる一日となりました。



生活支援員 大久保 美穂

今回の行事を実施するにあたり、「万が一」の負の可能性にどれほど渾沌としたことか。しかし、職員は、利用者の笑顔を見るために、創意工夫を凝らして内容を検討し、その結果とても楽しい暑気払いとなりました。

今後も続くであろうコロナとの戦いではありますが、コロナを乗り越えて明るい未来を切り拓くためには、私たち一人ひとりに新たな適応力が求められているのかもしれない。

これからも、仲間たちと知恵を出し合い、頑張っって前に進みたいと思います。

ゆーあい工房施設長 中村君枝



生活介護メンバー作 くじらのちぎれ絵

社会福祉法人うまぐりの里
法人本部、障害福祉サービス事業所ゆーあい工房
相談支援事業所めだか

〒328-0033 栃木市城内町2-62-14
TEL 0282-25-4001
Fax 0282-25-1575
E-mail yu-aikoubou@cc9.ne.jp
ホームページURL: <http://www.cc9.ne.jp/~yu-aikoubou/>

共同生活援助事業所なごみの家
〒329-4412 栃木市大平町北武井655-3
TEL・Fax 0282-21-7800

●編集後記●

7月初旬に発行予定でしたが、今般のコロナ渦で予想を越える日々の支援に追われ、この時期となったことにお詫びを申し上げます。

関係各位、これから来る盛夏をどうぞお元気にお過ごしください。

ひだまり第4号の発行にあたり、ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

●編集スタッフ●

うまぐりの里常務理事 中村君枝
ゆーあい工房主任 川又正久
ゆーあい工房支援員 渡邊啓之
ゆーあい工房支援員 赤堀美穂



ひだまり

第4号



理事長あいさつ

夏本番を迎え、記録的な暑さが続く毎日ですが、皆さまにはお元気にお過ごしのこととお喜び申し上げます。さて、新型コロナウイルスが全世界に拡大し、人間社会の生活環境を脅かしております。我が国においては、「緊急事態宣言」が解除されて収束に向かうと思っておりましたが、逆に感染者が増加しつづけます。私達の眼に見えない「コロナウイルス」との生存競争なのかもしれませんが、人間の知恵と科学の力で「コロナウイルス」を撲滅していただきたいものです。

この「コロナウイルス」騒動により、「うまぐりの里」としても今年度の各種行事が殆ど中止となり、利用者は勿論のこと職員も含めて「フラストレーション」(欲求不満)が蓄積されております。保護者の皆様も同じ気持ちでいらっしゃると思います。

これらの状況を考慮して、これから各種行事の中止に替わり、利用者の安全・安心に注意しながら、リフレッシュできる色々な行事を計画・実行していきたいと考えております。

皆様の温かい御理解と力強い御支援・御協力を今後とも宜しくお願い申し上げます。

社会福祉法人うまぐりの里
理事長 岩川 和男



2020年度 保護者会事業計画・新役員紹介

令和2年(2020年)もすでに半年以上経過してしまいました。令和最初の新年を迎えたあたりから、新型コロナウイルスの話題がちらほら出始めたと思ったらダイヤモンドプリンセス号の集団感染、3月には学校の一斉休校、感染の拡大、オリンピックの延期決定、緊急事態宣言の発令と、今年の上半期はコロナ一色に覆われた感じがします。

保護者会の活動についてもこの影響を受け、定期総会については初めて「書類審議」とせざるを得ませんでした。その後コロナの影響を見極めておりましたが計画していた事業についても、工房まつり(工房との共催)、親睦ボウリング大会(9月開催予定)、親睦旅行(10月開催予定)が中止に追い込まれてしまいました。

感染者の数も徐々に減少してきて、6月1日から自粛が段階的に緩和されて6月19日にはプロ野球も再開され、少しは期待していたのですが、ここに来て大都市のみでなく栃木県内でも感染者が急増しており、先が見えない状況になってきています。

従いまして今後の保護者会の事業につきましては、この辺の状況を見極めながら、安全を最優先に対応を検討していきたいと考えておりますので皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

なお遅くなりましたが、今年度改選されました役員を次の通りご紹介させていただきます。(敬称略)

【会長】佐野義晴 【副会長】遠藤光正、大塚町子(新任) 【会計】臼井守子(新任)

【監事】大森裕子、鈴木京子(新任) 【理事】アダ・ペセロス、伊早坂美和、田村浩美(新任)

これから2年間宜しくお願い致します。

保護者会長 佐野 義晴

今号の特集

コロナに
負けない!
栃木県

エール!とちぎ
一つになろう栃木県



フー!
フー!
みんな!!

これまで、ゆーあい工房では、新型コロナウイルス感染症予防対策として、様々な取り組みを行ってきました。4月になり、密を避けるため各家庭のご協力のもと、就労継続支援B型の利用者さんを中心に、無理に出勤せず、家庭で仕事を行う在宅サービスの提供を5月末まで。電車通勤される利用者の方は、通勤・通学のピークの時間をずらして出勤していただきました。もちろん手洗い・うがい・消毒を徹底し、今後も予防に努めていきます。

暑い夏、マスクをするのもツライ時期ではありますが、心を一つにがんばっていきたいと思います。
ゆーあい工房の一日をちょっとご紹介。



ご協力いただきありがとうございます。
ゆーあい工房へ来訪された方に手指の消毒
や検温を実施させていただいています。

また、個人送迎をされる保護者は、密を避けるため、車の中でお待ちいただき、職員が直接利用者を誘導しています。



「おはようございます」
元気にあいさつした後は、非接触型温度計にて検温します。温度を記録し、利用者みなさんの平熱を把握して支援に努めます。



生活介護のプログラムや各作業についても、密にならないよう間隔を空け、活動しています。
普段は作業を行わない場所も開放し、分散化した取り組みを行っています。



無学文盲

町内の婦人会サークル活動の一つとして、会員の親睦を図るために、編み物教室(かたり場)を始めました。

手仕事の好きな方が集まり、作り度い物を自分なりに自由に決め、その手助けをするという事で始めたものです。町内の公民館で昼の部、夜の部と週一回ずつの楽しみが長い間続きました。

作品が仕上がるたびにみんなで喜び、笑い合い、親睦は高まっていったと思います。

始めてから35年が過ぎ、年齢は増し、人数は減少してきて、今は手仕事半分、おしゃべり半分となりましたが、あっ！！という間の2時間です。食事の話、楽しい遊びの話、病気の話と最後にはお墓の話まで行く時があるこの頃です。

そんな長い間に言葉の使い方の難しさを学び、実践してきた事を紹介しておきます。

～一つの言葉～

一つの言葉で ケンカして	一つの言葉で 仲直り
一つの言葉で ほめられて	一つの言葉で 泣かされる
一つの言葉は それぞれに	一つの心を持っている

◎ たった一言が人の心を傷つけ たった一言が人の心を暖める



うまぐりの里理事 高瀬佑子

コラム「虹色のペンシル」 第5話

入所して23年

関口 かつ子(ゆーあい工房保護者)



待ちに待った入所式。天候にも恵まれ花々も咲き、祐子は緑色のスーツに身を包み出席。支援員さんは若く、笑顔で迎えて下さり、楽しい入所式でした。

入所するまでは一般企業で5年間働き、最初の2年間は何事もなく従事。しかし、会社に新入社員が入社するとなかなか馴染めず、苦勞の3年間でした。リストラに遭い退社する。すぐに栃木養護学校(現在は栃木特別支援学校)に相談、先生から「ゆーあい工房」が紹介され、開設まで待つことになる。

あれから23年。たくさんの事を経験、思い出に残る事ばかりです。

北海道旅行のカニ食べ放題、二度目の旭川動物園や沖縄の美ら海水族館のジンベエザメ、海のきれいだったことなど。また、10周年記念式典では、念願のウエディングドレスの着用、試着もたくさんした様子で、楽しかったと今でも言っています。

祐子が私の老後を見ると言っ、「ヘルパー3級」の資格を取得。実習のときは楽しく仕事もできたが、いざ就職となると難しかった。

これからも笑ったり、怒ったり、立ち止まったりしても、皆さんと仲良く「ゆーあい工房」で、親子して年を重ねて行きたいと思います。

利用者紹介(針ヶ谷裕司さん・島田 遥香さん)

裕司さんは、令和2年3月に栃木特別支援学校高等部を卒業され、3月23日にゆーあい工房に入所されました。ゆーあい工房では、生活介護事業のサービスを利用され、毎日生活介護のプログラムに沿って、体操や創作活動などに取り組んでいます。これから、ゆーあい工房の生活を通して、いろいろなことを経験してほしいと思います。



遥香さんは、令和2年3月に栃木特別支援学校高等部を卒業され、3月16日にゆーあい工房に入所されました。ゆーあい工房では、就労継続支援事業(B型)のサービスを利用され、毎日木工作业を行っています。今後は、菓子作業でパンを作りたいという希望をお持ちですので、希望が叶うように頑張してほしいと思います。



商品紹介①・木工



木工部門です。今回はこちらの写真立てをご紹介します。
既にお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが、栃木市にて婚姻、または出生された方への記念品として贈られています。この写真立ては、栃木市からの優先調達として、ゆーあい工房で制作しています。材料はもちろん、栃木県産ヒノキ材を使用しています。この他にも新成人への記念品としての写真立ても制作しています。
栃木市の写真立てはこのデザインですが、基本となる写真立てにオリジナルの彫刻を行うことも可能ですので、世界に一つだけの写真立てを制作することができます。記念品・贈り物をお考えの方は、お気軽に事業所までご相談ください。

職業指導員 荒川 直人

商品紹介②・生活介護・マスク作り

「みんな、使ってね！」

この度、生活介護事業のプログラムであるとんとん染めで「とち介のマスク」を作り、販売まで出来たことにとても感謝しています。

きっかけは家族がさらに作ったマスクでした。これにとんとん染めでとち介を入れたらどうだろう。職員で相談しながら上下に広げて、中に芯を入れて型崩れしないようにして…。これが仲間たちにも好評で、「やってみよう！」と始まったものの、私自身裁縫なんてほぼ初心者。とても不安でした。

下野新聞の取材とケーブルテレビの取材が決まり、本格的にマスク作りが始まりました。すると、職員・仲間を中心に保護者会の有志ボランティア、法人の役員さん、そしてとんとん染めのご指導をいただいている和田商店さんなどたくさんの方が協力してくれたのです。私たちだけでは到底できないことが、たくさんの方の力で形になったこと、本当に感謝しています。

今回のコロナ感染症で大変なこともたくさんありますが、この1つの商品を通して人との繋がりを感じ、仲間たちがやる気とやりがいを持てたことは大きな収穫となりました。これからも、今の気持ちを大切に、みんなで協力して頑張ります。

私たちの自信作をぜひ使って、コロナを乗り切っていきましょう！！

生活支援員 赤堀 美穂



「つぶやき」 事務員 長澤 朋恵

ゆーあい工房は、季節や自然を身近に感じられる職場です。窓が多く開放的なため、外の様子もすぐに分かります。雨音が大きくなれば雨足の強まったことに気が付きますし、カラリカラリと良い音が聞こえてくれば、それはガレージで仲間が缶つぶしを始めた合図です。当たり前のことのように思えますが、意外とそういう職場は少ないのではないのでしょうか。

春、後ろの土手には菜の花が広がり、キジが毎日のようにケーンケーンと鳴き始めます。七夕の給食は、そうめんです。夏が来たなどワクワクするのも一瞬で、あっという間にうだるような暑さとなり、事務室前には期間限定のかき氷屋さんが開店します。シロップは仲間自身がかけてくれますが、一番人気は全種かけるレインボーです。秋も深まり冬が近づくと、ホールには暖炉の登場です。屋根の煙突からモクモクと煙が昇り、青い空に溶けていく様子がおもしろく、私の一番好きな風景です。

そしてまた春がやってきます。ただでさえ1年はあっという間ですが、ゆーあい工房で働くようになってからは余計に早く感じるようになりました。それは季節とともに1年を過ごしているせいかなと思っています。



昼食は、配膳の際、廊下に貼ったテープを目安にして、ソーシャルディスタンスを保ちます。そして、向かい合わせにならないように席に着いて、おいしい給食をいただきます。

続いては

グループホーム

なごみの家



「コロナにまけるな」の取り組みについて

新型コロナウイルス感染症に関する様々なニュースが連日発信されています。そんな中、なごみの家でもグループホームという共同生活の中で感染症対策に取り組んできました。

共同生活での感染症対策において、まずなによりも大切なのは「感染者を出さないこと」です。そのためにはグループホーム内での取り組みだけでなく、出入りする方々の予防意識も重要となります。ご家族には面会時、滞在時間はなるべく短く。日用品等の受け渡しは玄関先でとお願いさせていただきました。

利用者には、感染症対策として基本の検温を朝と夕2回。外出先から戻ったら手洗い、うがい、消毒の徹底を実施。その他、換気をこまめに行い、飛沫感染を防ぐため対面にならないよう食卓の配置を変更しました。

世話人は利用者のいつもと違う状態にいち早く気づくため、日頃から利用者とコミュニケーションをとりながら観察に努め、健康状態を把握しています。また、その情報の申し送り、世話人同士での情報共有を素早く行っています。

新型コロナウイルスの影響で外出も制限されている利用者のみなさん。そのストレスは職員以上ではないでしょうか。「利用者が変わらない毎日を守りたい！」このような状況だからこそ、みんなで元気を出し合って前向きに新しい生活様式を取り入れコロナというこの難局を全員で乗り切りたいと思います！

なごみの家担当 支援員 小林 倫子



コロナに負けず、うまぐりの里は元気に活動していきます！！